



## Weekly Report

ロータリーのマジック

THE MAGIC OF ROTARY

2024～2025年度 RI2540 地区テーマ

「小さな奉仕を積み重ね、  
希望の未来へ前進しよう」

## 大館中央ロータリークラブ

ODATE CHUO ROTARY CLUB

R I 会長：ステファニーA.アーチック

地区ガバナー：佐藤 和志 (田沢湖RC)

会長：菅原 新一

幹事：秦 誠

会報委員長：尾形 勝美

### 第1382例会 2024年12月16日

#### ■出席報告

会員数 15名

本日 出席者 13名 出席率 86.66%

9/2 修正 出席者 15名 出席率 100.00%

修正率 100.00%



#### ■例会

毎週月曜日 12:30～

秋北電機工業(株)

#### ■事務局

〒017-0055 大館市宇沼館 91

秋北電機工業(株)内

TEL:0186-42-7275

FAX:0186-45-1552

E-mail:ri2540odatechuo@gmail.com

#### ■ゲスト紹介

大館市長 石田 健佑 様

#### ■会長の時間



今日は市長がゲストスピーチということでいらっしゃいますので、あまり長く話をしますと市長の時間が無くなりますので短く終わらせます。私も話をするといくらでも話ができるタイプですので、今日は控えめにしたいと思います。記憶がありませんが、我がクラブ始まって以来か…大館市長をゲストスピーチとしてお招きできたことは最高のゲストを招待できたなあと思っております。何とんでも日本全国もっとも有名な市長、最年少市長ということでおそらく世界各国まわっても、そんなにいないと思いますので、本当に素晴らしい市長をお招きして今日は貴重な講話を聞けるとしますので非常に楽しみにしております。この後は市長のはお話になると思いますので私は、今日はこの辺で

終わりにしたいと思います。

#### ■メイクアップ

12月12(木)少年健全育成標語コンテスト表彰式へ 菅原会長 出席

#### ■12月プログラム

12月16日(月) ゲストスピーチ 大館市長

12月23日(月) 忘年家族夜例会(クリスマス) 18:00～白樺苑 会費 5000円 家族 4000円

12月30日(月) 休会(年末のため)

#### ■幹事報告

○ガバナー事務所より、年末年始休業のお知らせ 12/27(金)～1/5(日)まで

○ " 国際大会ツアーのご案内

**ニコニコBOX 本日の合計 11,000円 目標 300,000円 32.0%達成**

- 菅原新一会長・秦 誠幹事・秋本守正会員＝市長ようこそいらっしゃいました。
- 伊藤佐喜夫・西村政幸・丸山佳孝・坂本公二・洞田健一郎・三浦朗会員  
＝大館市長を歓迎します。
- 三浦 朗会員＝4RC合同新年会を欠席するのでニコニコします。
- 伊藤深雪会員＝6月に5人目の孫が誕生。やっと11月に神奈川に会いに行ってきました。ビデオとは全く違い、生で会えたことに嬉しく、可愛さが倍増しました。

## ■プログラム ゲストスピーチ



大館市長の石田と申します。本日は宜しくお願ひします。まずはテーマですが「子や孫世代が共に栄える大館」ということで、これは私がずっとキャッチフレーズとして発信させていただいてるものになります。なんでこういうキャッチフレーズにしたかといいますと、大館が人口減少だ、少子高齢化だって言われるんですけど、それはピンチの内容だけ話すと確かにそうなんです。私は東京で起業して大館でも起業させ

て貰って、それでその時に一番助けてくれたのがおじいちゃん、おばあちゃんでした。こっちで起業するときには先祖代々の土地を売ってくれて400万だしてもらいました。日本全体の構造も全く同じで、日本の金融資産の50%以上を65歳以上の方が持たれているというような構造になっております。まさに大館もご高齢の方は多い。ご高齢の方が若い若年層に比べるとご高齢の方のほうが当然、時間的にも金銭的にもゆとりのある方の割合が多いです。東京で私が起業したときは、まわりのみんながやる気ある若者であふれてて、ライバルばかりなんです。ですが、大館はそうじゃなくてみんな周りの人たちが助けてくれるし、おじいちゃんおばあちゃんもフォローしてくれるし、もしかしたらこれからは、こういう大館みたいな地方のほうが子や孫世代とご高齢の世代の方たちが一緒に栄えられる町なんじゃないかという風に私は考えました。ですので、子や孫世代が共に栄えると。いま、市長として子や孫世代が共に栄えると言うと、少し違和感があるんですけど、



大館の人口ピラミッドを見ると一番多いのが70代です。ですので、この70代を大館の一番のボリュームゾーンとしてみたとき、子や孫世代が共に栄える町じゃないといけないという部分でこれをしっかりとテーマにさせてもらいました。ちょっと自己紹介になるんですが、市長に就任させていただいてから本当にありがたいことに、全国最年少市長ということで、本当にたくさんのメディアに取り上げて頂きました。今日は秘書も一緒に来ておりますが、就任してすぐ秘書には取材が来たら基本全部受け



てくださいと伝えました。せっかくこうやって注目していただいているので、夜遅くてもいいので取材は全部受けてくださいと。就任してから日中は公務、夜には取材を受けてとといった生活が続い

令和6年12月23日発行

たんですけれども、全国にはおそらくこの大館っていう名前を知って頂くいい機会になったと思いますし、県外で曲げわっぱを販売されていた事業者さんからは、「最年少市長さんが

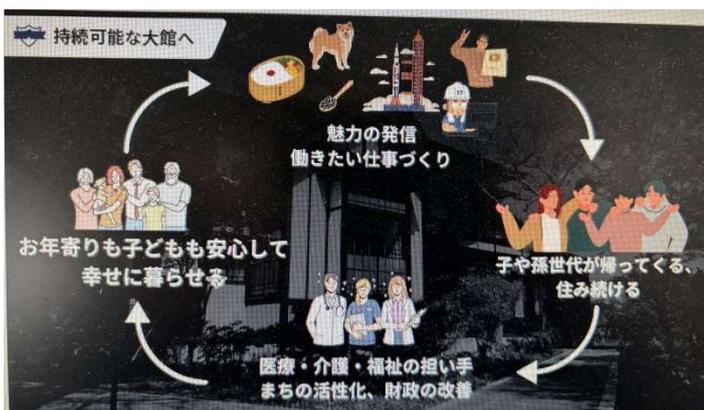
誕生したところでしょ？」とってお祝いにと買ってってくれた人がいたと聞いております。ですので引き続き取材は全部断らずに、基本、全部受けてどんどん情報発信をしていきたいと考えております。市長になる前、大館で起業したカブトムシの会社もまさしくメディア戦略ということで、とにかく新聞・テレビ・ラジオ色んなメディアに出させてもらいました。NHKさんでも3回放送してもら

ったり、YouTubeもホリエモンの番組に出させてもらったり、堀江さんを含めて1人1億ずつ3人がお金を出したいと申し出てくれたり、あとはバラエティとかも出させてもらえたりとか、結構様々なジャンルの番組に出させてもらいました。これをやることによって知名度が無かったころは、営業するのも仕事をとるのも大変だったんですが、知名度を上げてからはむしろ営業をして頂ける側になったので一切営業すること



なく会社が成長してきました。ですから、大館も同じように良いものがたくさんあるのでそれをどんどん発信して行きたいと考えております。このメディア戦略のおかげで本当に数多くの企業さんと、私が起業した会社と連携をさせて頂きまして、数多くの大手企業・大学・自治体と連携をさせて頂いております。今でも民間企業さんと繋がりも沢山ありますので企業版ふるさと納税等々を含めお願いをしております。こういう今まで作ってきた人脈を活かせるように市政運営にも取り入れていきたいなと思っております。それから持続可能な大館ということで、私がまず考えたのは色々な職種を増やさなきゃいけないなと。それは若い世代がどんどん外に出て行ってしまうので。若い人がみんな出ていくときに大館は仕事がないと言って出て行ってしまうんですけども、全然仕事がないわけではなくて、情報が届いてないだけであったり、仕事の種類が少なかったりするので、そういったところをどんどん変えて職種を増やしていきましょと。まずは地元の魅力をしっかり発信すること、それから職種を増やすということをやりたいということを発信させてもらいたいです。

そうすることで子や孫世代が住み続けたいと思ってくれたり、大館に帰りたいたって思えることが非常に重要であると。市長がこうやって若くなると市民の方からは「市長が若くなったから若い人向けの政策になっちゃうんでしょ？」と言われることがあるんですけども、でも結局若い世代が帰ってきてくれたり、ここで働いてくれるようになるということは、いずれ医療介護福祉をはじめとした担い手になってくれるので、巡り巡って最終的



にはそれがお年寄りも子供も安心して幸せに暮らせる町に繋がっていくんだというところを必死に私もアピールさせてもらってます。大館市の課題ですが、まさに人口ピラミッドの話ですね。70代のところが一番多くて、この世代がこれから医療介護福祉が必要になってくる世代です。じゃあ逆にそれを支えるために働いてくれる人がどれだけいるのか？といたら当然足りない。そのために若い人に残ってもらわないといけない。働いてもらわないといけない。そのために医療介護福祉の仕事は当然あるんですが、何のために職種を増やすのかといたら、周りの友達も残ってくれるようにするためです。例えば色んな職種があるよってことで友達が残ってくれると、じゃあ自分も大館に残ろうかなっていう若者も当然出てくるので、そういう意味ではもっと職種を増やして医療介護福祉に従事したい人も地元に着定してくれるように、そういう環境を作っていきたいと考えています。この課題を克服していくために5つの柱を設定させて頂いています。①定住人口の確保と若者流出対策②人手不足対策③少子化対策④高齢化対策⑤新しい財源の確保といった5つ設定をさせて頂きました。この定住人口の確保と若者の流出対策、もうひとつ人手不足対策、若干意味合



いは似ているんですけど、本当に人手不足対策は喫緊の課題であると。特に介護業界も本当に人がいなくて困っている。よくロボット使えばいいじゃんっていう話があるんですけど、今の法律上、なかなかロボットを入れたからといって介護を必要とする人が施設などに入れる人数が増えるわけではない。ですので、この人手不足という根本のところをちゃんと解決に向けて動かなければいけない。5つの柱の1つ目なんですけど、定住人口の確保と若者流出対策ということで、ひとつが職種を増やすということ。若者が働きたいと思う仕事の創出をしていく。あとは情報発信。私も個人のSNSを使っているいろんな情報発信をしているんですけども、行政でやってる良い制度や補助金などがあつたとしても、それを知らずに使えなかったっていう人がたくさんいるんです。ですので、そういう情報をしっかりこっちからプッシュして出していけるような仕組み作りをしていきたいと考えています。人手不足対策については、もう市内では人材の取り合いになってしまっているの、市街にしっかり目を向けて地元企業に連携をさせて頂いて、企業さんは人材を獲得して、行政は人口を獲得していくということと一緒に取り組んでいきたいと考えています。他にも眠っている人材の掘り起こし。例えば自分の親の介護で働けないんですっていう方も結構いて、そういう方にどうやって活躍してもらおうかという人材の掘り起こしだったり、人材のシェアリング「ワークシェアリング」ですね。これをもしかしたら作れるんじゃないかというところを、いま検討を進めております。次は少子化対策ということで、これもすごく大きな課題として、難しい課題としてあるんですが、まずは希望出生率っていうのがあって、生んでいただけるような支援をまずはしていきましょう。そしてまず希望出生率の達成をしましょうと掲げています。他にもありますが、

子供と結婚というのは他国でもセットに考えられているので、結婚や子育てに関するイメージアップも取り組んでいかなきゃいけないと考えてます。今はいろんなメディアで悪い情報ばかり発信されてしまってるので、例えば子供に関しての情報だと子供を育てると親の自由がなくなるとか、生活が苦しくなる、趣味がなにも出来なくなるとか悪い情報ばかりがピックアップされて、発信されてしまうことが多いので、ここはメディアの皆さんと協力しながらイメージアップをしっかりとっていかないと考えています。実際のところ、子供が沢山いてごはんが食べれなくなってしまうというのは実際いないので、そういうところをしっかりと結婚っていいんだよ！子育てっていいんだ



子供と結婚というのは他国でもセットに考えられているので、結婚や子育てに関するイメージアップも取り組んでいかなきゃいけないと考えてます。今はいろんなメディアで悪い情報ばかり発信されてしまってるので、例えば子供に関しての情報だと子供を育てると親の自由がなくなるとか、生活が苦しくなる、趣味がなにも出来なくなるとか悪い情報ばかりがピックアップされて、発信されてしまうことが多いので、ここはメディアの皆さんと協力しながらイメージアップをしっかりとっていかないと考えています。実際のところ、子供が沢山いてごはんが食べれなくなってしまうというのは実際いないので、そういうところをしっかりと結婚っていいんだよ！子育てっていいんだ

よ！というのを発信していきたいなと考えてます。次に高齢化対策なんですけど、大館は急速に人口減少していますけど、人は減ってもカバーしなきゃいけない面積が減るわけではありませんで、じゃあ人口が減っていく、予算も減っていく…じゃあどうやってインフラを維持するか？っていうと、やっぱり仕組みづくりをしっかりとやることと、技術革新をやらなきゃならない。この前も自動運転の実証実験をさせていただいております。

つい最近ですが、私が市長に就任してから国土交通省の方が何名か来ていただいて、大館も交通の便利を増やすためにもライドシェア(一般ドライバーが自家用車を使って他人を運ぶ配車サービス)とかも挑戦していかなくちゃいけないという話をそこでさせて頂いておりました。それを民間企業の方にもお話をする機会がありまして、つい先日、2社がライドシェアに手を挙げて頂きました。ということでこれから大館もライドシェアが進んでいくと思います。これは国土交通省で先進事例ということで資料にも入れて頂いて、これもようやく進んできて良かったなと思っています。他にも地域ごとに色々な課題がありますので、集落支援員制度というのが国の方で用意されていますので、まずはどの地域にどんな課題があるのかっていう情報を集めるところから始めて、しっかり集落の支援をしていくっていうところを取り組もうとしています。もう一つ、医療福祉介護・生活の連携対策の構築ですが、これについても先週、地域医療連携推進法人という法人を新しく設立しまして、これは例えば、大館でいうと市立病院とか扇田病院とか各介護施設とかと一緒に同じ法人格に入りましょうというプロジェクトです。実際なにをするかという、どこの病院にどんな患者さんがどれだけ入院しているか、そしてどれだけ病床数が空いているか。じゃあこの人は病院に入院のほうがいいのか、介護施設に入所するほうがいいのかっていうのを、情報共有をしっかりと、適切に限られた医療資源の中で一番効率のいい医療や介護福祉の仕組みを作りましょうっていうことで設立されて、ここから更に連携体制が深まっていくんじゃないかなと。色々な患者さんがいつどんな診断を受けて、どういう薬を飲んだかっていう情報も共有できるようになれば救急の時も対応ができるようになりますので、この連携対策の構築に向けて一歩踏み出せたんじゃないかなと思っています。

5本の柱

## 定住人口の確保、若者流出対策

若者流出に歯止めをかけるために

**職種を増やす**

若者が働きたいと思う  
仕事の創出  
大館だけでできないこ  
とは誘致を

**情報発信**

SNS等でつながりをつ  
くり、大館の生活や行  
事、補助金(移住定  
住)、求人情報等を発信

取組案・例  
スタートアップ企業に  
よる市長ピッチ

取組案・例  
起業・第二創業支援  
▶上場会社輩出へ!

取組案・例  
LINE等の導入検討

5つ目の柱として、新しい財源の確保ということで、これはもう今ちょうど予算編成に入ってますが、ここでも本当に前年主義で予算をつけるんじゃないかと、例えば去年この予算だったから今年もこれでいくんです…ではなくて、本当にその予算が市民のためになってる予算なのかどうかをしっかりと検証したうえで、その「検証」というのが本当に大事で、行政の予算をつけて執行して終わり…ではなくて、それが本当に意味があった予算だったのか、

ちゃんと検証していきましょうということを今の予算編成でもお話をさせて頂いたマズ。もうひとつは、ふるさと納税ですね。これは大体、売り上げを上げた額の約半分ぐらいが自治体の予算として入ってきますので、新しい予算の確保という意味ではふるさと納税をしっかり強化していきたい。今年には大幅に米の値段が上がりまして、米が不足しましたので中々ふるさと納税に米が回ってこなくて、今年にはちょっと厳しい結果になるんじゃないかなと思っています。あとはお米だけに頼らないふるさと納税の仕組みも考えているところです。例えばインフルエンサーの事務所の経営者の皆さんとお会いさせて頂いたりするんですけども、そういう発信力・販路を持った人たちと組みながら商品を作ったりということもできるんじゃないかなと、いまそういう取り組みを進めさせて頂いてます。更に市政の歩みを加速させていこうということで、当然インランドデポ構想。これも、私が公務の間で時間があるときは地元企業を回らせて頂いたりもしていますので、その中でインランドデポ

に期待をして頂く声が多数寄せられていますので、これもしっかり進めていきます。大館市長というのは空港の利用促進協議会の会長になってるんですけども、大館も3便を維持鈴為にしっかりと利用促進に努めております。私が市長になって嬉しかったことが、こういう風にメディアにも沢山出させていただいたこともあって、沢山 SNS を通じてメッセージを頂けるようになりました。将来、大館でお店を出したいんです！とメッセージがきたり、いま大学なんですけど、

将来大館に帰りたいんですといったメッセージを頂いたり、沢山メッセージをもらっています。よく就任してから、市長頑張ってください！とよく言っていたんですけど、そのたびに市長だけが頑張るんじゃなくて皆さん一緒に頑張るんですとお話させて頂いています。そういう風にみんなで頑張るんだといった気持ちをもってくれた方が増えたってことが私にとってはすごく嬉しいことで、最近も地元の高校生がスタバを誘致したいっていう活動をされていたり、スタバを持ってくるのが良いか悪いかはまた置いて、高校生がこうやって地域のために活動するっていうことがとっても素晴らしいことだと思ってまして、この前、私も意見交換ということで高校生の皆さんとお話させていただきました。こういう活動がどんどん広がってくればいいなと思っておりますし、市長としてもいつでも皆さんにどんどん提案していただきたいなと思っています。引き続き、この大館を全国・全世界へトップセールスをしていくということで、このメディアに出ることもひとつのトップセールスだと思っていますので、出演させて頂いた時には最後に必ずふるさと納税は大館へお願いいたしますとお話をさせて頂いております。ですので、大館の魅力をどんどん発信していきたいと考えてます。そして対話と行動で市政運営をということで、共に栄える大館を作っていくと。これからは本当に地方の時代だと私は考えてます。最初にお話しさせていただいたように、私も東京都大館で起業してますので、東京は人口が密集していますので人口を頼りにしたビジネスができますが、これからは日本全体が人口減少していますので、人口頼りのビジネスではなくて地方の資源とか地方にある素晴らしいものを日本全国・全世界に売っていくといった時代になっていくんじゃないかなと考えております。もう一つは、全ては人から始まるという部分で、当然行政は補助金つけたり、予算をつけたりとか、そういうことは確かにできますけど、どんなビジネスもどんな事業も良い人がいないと絶対に成功しないということで、なので私が今やらなきゃならないのは、情報発信をして、やる気のある人をこの大館にどんどん集めてくることなんじゃないかなというところで、まずは情報発信に取り組むというところをやっています。教育についてなんですけど、自分を知ることと世界を身近にということを私自身が大切にできてきててですね、日本の教育って基本、右ならえみたいな教育で、みんなが同じじゃなきゃいけないというか、自分と他の方の違いが中々分かりにくい教育だなと私自身感じてまして、特に海外…特にアメリカだと色んな人種がいるので、自分の違いを理解して行動しなきゃいけないと。なんで自分を知るのかなというところが、意外と自己分析が出来ていないなということが結構多くて、私がこういう講演とかさせてもらって、子供たちに一番質問受けるのが夢がないとか夢のを見つけ方を教えてくださいみたいな話をされるんですけど、それって自分にとって夢とか自分がどんな時に幸せを感じるのかっていうのを、自分自身がちゃんと分かってないというのがすごい多いなということを感じています。なので、ぜひ自分がどんな時に幸せを感じて楽しいと思うのか、それがきつともしかしたらお金じゃないかもしれないし、家族かもしれないし、ということを考えてたらもしかしたら大館に住むのが良いのかもしれないっていう、ただただお金ばかりを追うんじゃなくて自分が何に幸せを感じるのかっていうのをちゃんと知るっていうことが大事だと思います。あと世界を身近にっていうのがどういうことかという、夢とかって話になったときにイメージできるものじゃないとやはり夢にならないと思うんです。例えば私がアメリカの大統領になりたいですか？って言われても別にアメリカの大統領を目指してるわけじゃないので、そういう意味で、例えば自分が身近にオリンピック選手が居たりすれば、自分もオリンピック選手になりたいとか、親の仕事が警察だから自分も警察官を目指してみたいとか色んな仕事が身近にあるからこそ夢が変わっていくっていうことで、そういう意味で世界を身近にっていうところには色んな経験をしてほしいなと。そういう風に教育をしていきたいと考えています。今の時代を生きていくための4つの力ということで、私

が本当に大切にしていることなんですけど、①行動力 ②対話力 ③本質を見抜く力 ④情報発信とあります。大館の良さってまだまだ沢山あると思うのでちゃんと情報発信をして行きたいと考えています。これらの活動を通じて子や孫世代の共に栄える大館を皆さんと一緒に実現していきたいと考えておりますのでぜひ皆さんの力を貸していただきたいと思います。宜しくお願いします。